

令和元年 12月 21日

南の風 324

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

ポートボールの指導を始めたきっかけは、前号に書いた通り区の球技大会に向けてのものでした。ただ指導を続けるうちに、私はポートボールの活動が学級経営や学年交流にもつながると考えるようになりました。区の球技大会の練習では男子がサッカー、女子がポートボールと分かれていますが、授業の中にポートボール単元は位置づいていたので、男女混成チームで活動することによってポートボールを通して、学級がまとまる一つの手段になると考えたのです。サッカーを通して（サッカーも体育科の単元の中に位置づいていた）という考えもあるのですが、当時は、女子がサッカーに取り組む（授業以外で）頻度は非常に低かったのです。

そんな折、昭和47年度の中頃に体育館の新設が決まりました。ここで一つの転機が訪れます。

岡田先生から、「体育館ができれば、バスケットボールを子どもたちに教えよう。ポートボールよりバスケットボールの方が、競技として発展性があり子どもたちも楽しめると思う。」という話ができました。私はバスケットボールをやった経験がありませんでしたから、何とも答えようがなかったのですが、ポートボールを指導していた先生方から「やってみよう」という声が上がりました。

校長先生に、バスケットボールを指導する目的と教育的効果を話すと「やってください。」とOKができました。ただバスケットボールは体育のカリキュラムには無いわけですから、普通ならバスケットボールのリングは設置されないのですが、校長先生の配慮で横に2セット作ってもらうことになりました。（体育館の縦の吊り下げ式リングではありません。）しかもリングの高さが、ミニバス用の2m60cmの高さから3m05cmの一般用まで調節（上下にスライドする）できるようになります。

体育館は昭和48年度末に完成しました。

それと同時に、特別クラブのバスケットボール指導も始まりました。5・6年生の男女の希望者を募り、始めたのですが参加人数が男女合わせて50人以上になり、どのように効率よく指導したらいいのか迷いました。6年生の先生を中心に、教育実習生（近くに横浜国立大学があり、毎年6～7人の実習生が来ていた。）にも指導を手だってもらい、また私の弟（当時大学生）の手も借り、指導する場所も校庭、体育館に分けておこなっていました。

こうして土曜日の午後を中心に、時間の取れる放課後にも活動していました。

活動を続けるうちに、発表の場（対外試合や練習試合）がほしくなりました。練習を重ね、自チームで紅白戦をやっても物足りなさが残りました。ただ保土ヶ谷区内にバスケットボールの活動をしている学校はありませんでした。

そんな最中、月刊バスケットボール誌に、『全国ミニバスケットボール大会』が昭和50年3月（春休み）に、東京で開催されるという案内が掲載されました。

全国大会があることを知った私は、神奈川県はどういった選考方法で出場チームを決めているのかを知ろうと思い、神奈川県バスケットボール協会に問い合わせました。

そこで神奈川県内のミニバスケットボール活動の実態を知ることになるのです。